

謹陪黄梅之役

尚起居益内清穆

七年夏

昨十日執行相城月佐督人

縣多額細稅者豫負

互認の順る清穆の結

果を見し元本本録の

十少人の執事の進歩ある

の情を案する者のみ、是

る無難事にて適事の後

員を認出しはるべき。是

八板表八重任の望心を起し

既情を語り、為の日記中の

八坂表八重任の聖心と起し  
強情を張り、為め曰志中の  
協縁調は甚だ逆、四人の競  
争とお成更中大石大印指  
優等を占むるの見は、ある次  
即ち昌伯の答は、カクシク(即ち)  
印を占むに在る耳事  
情一変、坪島那の多岐組  
後者二人(或は形ちぶ、保内  
重考)は大石を推挙する見  
込のよ、下村に投票するの約  
束整たる趣、下村は、けし、と  
伊丹源を甲との投票に依り  
三點を得る事と、お成らば  
大石八坂、光岡の三人、お成  
二點以上を得るの見は、ある。

大石八坂、光岡の三ノ浦  
二点以上を得るの見は先之  
より殊にるる耳醜汚の事  
情換出し、手の附り様之  
為女子生は全く關係を絶ち、  
亦下成夜に併り古石の  
光岡、採葉を譲り渡す  
事と、お成、由こ、先之見  
四點を得るの見は確言  
至時、關西の物平、光岡を  
採葉し、ある古石を中と、此見  
他人とあるの故、葉を先之見  
成、下村、僅三點、さ、成  
毎、秋、高、限、と、長、成、其、間  
後、加、減、其、之、言、語、の、事、に  
可、なり

長崎物、市、販、賣、は

長崎

長崎野々原配座は

可々禪早の助力に依り

橋本雄造「五年當座了

田町より早連電法を以て

かまより

閣下へ深くお禮申上り

御依頼承り

先づいふ所存の事事情

御陳述を以て承り

御座候

二〇日

武富時敏

大隈老伯閣下

侍者